

東久留米の野草 9月・10月No.1(9月から10月に花を咲かせた主な野草)

※オオハナワラビ(9月8日):林内の肥沃な場所で観察できる。仲間に一回り小型のフユノハナワラビもある。※アオガヤツリ(9月8日):湿潤な場所で観察できる。※イヌコウジュ(9月13日):道端や林縁部などでよく見かける植物。※マメアサガオ(9月13日):北米原産、河川敷など含めて逸出多い。※ツルマメ(9月13日):減少傾向、大豆の原種と言われており果実(写真有り)を見ると大豆に酷似。※コシロノセンダングサ(9月13日):北米原産帰化植物、白く大きな花弁が特徴。※ヤハズソウ(9月13日):野原や路傍などで群生してハギに似た花を咲かす。※アレチヌスビトハギ(9月14日):北アメリカ原産の帰化植物。市内の公園など日当たりの良い場所で多く見かける。



ハナヤスリ科
オオハナワラビ



カヤツリグサ科アオガヤツリ



シソ科イヌコウジュ



ヒルガオ科マメアサガオ



マメ科ツルマメとその果実



キク科コシロノセンダングサ



マメ科ヤハズソウ



マメ科アレチヌスビトハギ

東久留米の野草 9月・10月No.2(9月から10月に花を咲かせた主な野草)

※ノダケ(9月14日):市内では絶滅が危惧される種類。※ショウキズイセン(9月14日):日本や台湾、他に中国原産など諸説あり。※オトコエシ(9月17日):市内では観察が難しくなっておりオミナエシの仲間。※マキエハギ(9月20日):北多摩地区絶滅危惧Ⅱ類。市内の生育地は1カ所のみ。※ミズガヤツリとテンツキ(9月20日):白山公園が湿原状態になると観察できる。※カラムシ(9月20日):かつては繊維を採るために栽培されていた。葉の表に毛がなく裏が緑のものはアオカラムシ。※アレチウリ(9月22日):特定外来種。主な生育地は河川敷だが緑地などでも繁茂。



セリ科ノダケ



ヒガンバナ科ショウキズイセン



オミナエシ科オトコエシ



マメ科マキエハギ



カヤツリグサ科

ミズガヤツリ



カヤツリグサ科テンツキ



イラクサ科カラムシ



ウリ科アレチウリ

東久留米の野草 9月・10月No.3(9月から10月に花を咲かせた主な野草)

※ウチワゼニクサ(9月22日):立野川沿いや落合川下谷橋付近でも見られる。※ヤマジノホトギス(9月22日):同種のヤマホトギスのように花被片が反り返らない。緑地の森化にともない減少傾向。※ナキリスゲ(9月23日):カヤツリグサ科の仲間では唯一秋に咲く種類。※スズメウリ(9月23日):小型で目立たない事もあるが中々出会えない植物の一つ。※カラスノゴマ(9月23日):市内では群生した様子が観察できる。※ノガリヤス(9月23日):今の時期林内でブラシ状の穂をつけた同種を観察できる。※アキノキリンソウ(9月23日):明るい林縁部など生育環境激減により市内では絶滅危惧種。※メリケンカルカヤ(9月23日):要注意外来生物。市内でもいたる所で観察。※アオミズ(9月24日):湿潤な場所で群落を作る。山菜として食用とすることもある。



ウコギ科ウチワゼニクサ



ユリ科ヤマジノホトギス



カヤツリグサ科ナキリスゲ



ウリ科スズメウリ



アオイ科カラスノゴマ



イネ科ノガリヤス



キク科アキノキリンソウ



イネ科メリケンカルカヤ



イラクサ科アオミズ

東久留米の野草 9月・10月No.4(9月から10月に花を咲かせた主な野草)

※ツリフネソウ(9月24日):市内では河川改修で激減。今では黒目川上流部でわずかながら生育。※シャクチリソバ(9月24日):薬用として持ち込まれて各地へ逸出している。※ヤツデ(9月27日):常緑低木。※オギ(9月27日):河川敷などの湿潤な場所で群落を作る。※アメリカミズキンバイ別名ヒレタゴボウ(9月27日):湿生の帰化植物。主に落合川沿いでの生育が観察できる。※ヤブマメ(9月27日):市内ではクズと同様多く観察できるマメ科植物。※イヌショウマ(9月27日):生育数が少なく市内の絶滅危惧種。写真の花穂にはビナンカヅラが巻き付いて写っている。※アメリカセンダングサ(9月27日):アメリカ原産。湿潤な場所から道端までいたる所で観察できる。



ツリフネソウ科ツリフネソウ



ソバ科シャクチリソバ



ウコギ科ヤツデ



イネ科オギ



アカバナ科アメリカミズキンバイ



マメ科ヤブマメ



キンポウゲ科イヌショウマ



キク科アメリカセンダングサ

東久留米の野草 9月・10月№.5(9月から10月に花を咲かせた主な野草)

※クコ(9月28日):東アジア原産の落葉低木で生育範囲を広げている。※ミズハコベ(9月29日):市内では観察が難しくなった。外来種のイケノミズハコベが多数。※ヨモギ(9月30日):日当たりのよい道端等で群生している。※シロザ(9月30日):近年では仲間のアカザの観察が難しくなった。※ケアリタソウ(9月30日):メキシコ原産の帰化植物。近年では観察することが少なくなった。※キチジョウソウ(10月2日):林内で群生している事が多い。※ナンテンハギ別名フタバハギ(10月4日):市内では生育地・生育数ともに少なく絶滅が危惧される植物。※カワラスガナ(10月10日):川沿いなどの湿潤な場所で群生する。※ヤナギタデ(10月10日):ポントクタデなどと同様市内を流れる川沿いや湿潤な場所で普通に観察可。



ナス科クコ



オオバコ科ミズハコベ



キク科ヨモギ



アカザ科シロザ



ヒユ科ケアリタソウ



キジカクシ科
キチジョウソウ



マメ科ナンテンハギ



カヤツリグサ科カワラスガナ



タデ科ヤナギタデ

東久留米の野草 9月・10月No.6(9月から10月に花を咲かせた主な野草)

※ポントクタデ(10月10日):市内を流れる川沿いや湿潤な場所で普通に観察可。※ハナタデ別名ヤブタデ(10月11日):主に山野の林や湿った場所などで観察可。※園芸種のホトギス／台湾ホトギス(10月11日):逸出したものが林の中などで見られる。※ヤクシソウ(10月11日):日当たりのよい林縁部などで観察できる。市内では適地が少なくなった事から数を減らしている。絶滅が危惧されている植物の一つ。※フジバカマ(10月11日):出自は不明だが本来の生育場所である川沿いの群生地がある。※リンドウ(10月14日):かつては林縁部などで観察できたが市内の絶滅危惧種。※セイタカアワダチソウ(10月18日):市内各地で見られる要注意外来生物。※キツタ(10月18日):常緑の蔓性木本で蔓から気根を出して樹木に絡みつく。



タデ科ポントクタデ



タデ科ハナタデ



ユリ科園芸種のホトギス



ユリ科台湾ホトギス



キク科ヤクシソウ



キク科フジバカマ



リンドウ科リンドウ



キク科セイタカアワダチソウ



ウコギ科キツタ

東久留米の野草 9月・10月№.7end(9月から10月に花を咲かせた主な野草)

※ハマスゲ(10月18日):乾燥した草地などで見られる。※ヤマシロギク別名シロヨメナ(10月18日):雑木林でよく見られるが森化により花を咲かすことが少なくなった。※カラハナソウ(10月20日):市内公園で植栽の持込み時に移入された植物。写真は雌花。※ホソバヒメミソハギ(10月20日):南北アメリカ原産。湿潤地で観察できる。※ジュウガツザクラ(10月20日):晩秋の頃と春の2度花を咲かす種類。※ナギナタコウジュ(10月20日):一年草であり生育地の頻繁な草刈りや森化により観察が難しくなった植物。※コブナグサ(10月20日):生育地では群生しているが減少傾向。※ヒメアシボソ(10月20日):イネなどと同様に芒(のぎ)がない。対して同種のアシボソは小麦などと同じく芒がある。



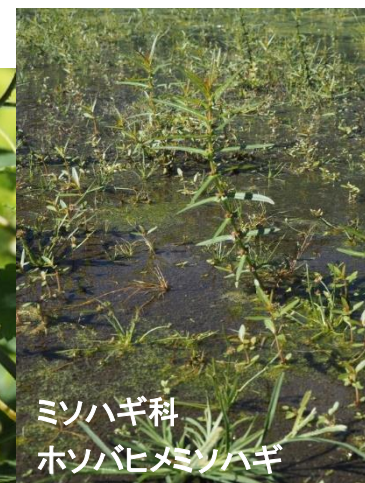
カヤツリグサ科ハマスゲ



キク科ヤマシロギク



アサ科カラハナソウ



ミソハギ科
ホソバヒメミソハギ



バラ科ジュウガツザクラ



シソ科ナギナタコウジュ



イネ科コブナグサ



イネ科ヒメアシボソ